

No. 1-8

事務事業評価シート1-1

は、プルダウンメニューから選択

事務事業No. 01 - 8

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与		6		作成日		26年 6月 13日		
事務事業名		オレンジバス運行管理事務						シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	1 安全・安心なまち						課名	政策課		係名	政策係
		1-2 住みやすいまちをつくる							シート作成者			
	施策	1-2-2 道路・公共交通網の整備						予算費目	会計		一般	
		④ 公共交通機関の充実							款		2	
主要施策							項		1			
							目		12			
個別計画名												
住民との関わり		公聴会・審議会・委員会への住民参画										
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）				目的（どういう状態にしたいのか）							
	住民（交通弱者）				高齢者や通学生等の日常生活の移動手段を確保し、適正な運賃、ルート、運行本数を検討し利用増を図る。							
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）											
南北線、東部線の2つの路線の運行業務を運行事業者に委託する。 3台の車両の修繕等、維持管理を行う。 南北線 1日15本運行 ネオポリス～北勢中央公園口 運賃100円 東部線 1日11本運行 中上～サンシパーク～笹尾東 運賃100円 回数券、オレンジバスパスポート(1ヶ月定期、3ヶ月定期)の販売												
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input checked="" type="checkbox"/> 17年度 ~ 平成 年度 (年間) <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし										
根拠法令・要綱等		道路運送法										
		平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）				
全体事業費（千円）A+B		54,679			61,858			69,170				
財源内訳	国庫支出金		0			0			0			
	県支出金		0			0			0			
	地方債		0			0			0			
	その他特定財源		0			0			0			
	一般財源		52,171			57,100			65,798			
直接事業費（千円）A		52,171			57,100			65,798				
人件費（千円）B		2,508			4,758			3,372				
内訳	一般職員（人・千円）		0.38 人 2,508		0.71 人 4,686		0.50 人 3,300					
	臨時職員（人・千円）		人 0		0.04 人 72		0.04 人 72					
成果指標	成果指標名				単位	25年度		26年度	27年度			
						目標	実績	(目標)	(目標)			
	①	バス利用者数			人	↑	111,754	↑				
	②	◆公共交通機関（三岐鉄道、路線バス、コミュニティバス）の利便さについての満足度			%							
③												
説明	平成17年度から平成21年度までの5年間は実証運行期間 実証運行期間最終年度(H21)の利用者目標を120,000人に設定 (H17...79,015人、H18...87,315人、H19...96,462人、H20...97,644人、H21...93,157人) 平成17年度から5年間の実証運行期間が終了し、平成22年度からは利用の極端に少ない東西線を廃止し、南北線、東部線の2路線で本格運行を開始した。 (H22...92,337人、H23...94,366人、H24...93,883人)平成25年度の利用者数は前年度と比べ17,871人増加した。 ◆は平成27年度にアンケートを予定している。											

事業名	オレンジバス運行管理事務	シート作成課	政策課
-----	--------------	--------	-----

一次評価者	政策課長	二次評価者	企画部長
-------	------	-------	------

評価項目の説明	チェック項目		一次の評価又は説明		
	一次	二次			
必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	交通弱者の移動手段を確保することは、住民福祉の向上のために必要であり、日常生活の上で不可欠であると考えます。今後の高齢者社会の交通手段として、また、自家用車を所有しない学生の通学の交通手段として、幅広い利用が可能となっています。	
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	オレンジバスのルートを鉄道駅、スーパー、病院、公共施設を設定し、交通弱者の移動手段として活用できます。また、利用頻度の高い利用者に対応するため、回数券の発行や、オレンジバスパスポート(1ヶ月定期・3ヶ月定期)を発行しています。	
達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	平成25年度の利用者は、平成24年度と比べ17,871人の増加となりました。各路線別では、東部線が636人の増加、南北線は17,235人の増加で、イオンモール東員の開業が大きな増加の要因と思われます。	
効率性	1. 効果に比べてコストが高い(他市町や類似業務を行う民間に比べて)。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	運賃収入により、運行事業をまかなうことは困難ですが、今後も利用者の増加を図り、採算性の向上を目指します。	

本事務事業の実施適切性の説明

オレンジバスは、日常生活の移動手段として利用いただくように、鉄道駅、スーパー、医療機関、公共施設をルート上に設定しています。利用状況は、平成25年度で111,754人であり、今後の高齢化社会にも対応する必要不可欠な交通手段として位置付けています。また平成26年10月には利用者のニーズに対応した新たな運行形態に変更し、さらに東員町の現状に合った利便性の高いバスを目指します。

一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	3	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し	継続	D	C
今後の改革・改善目標	利用者等の意見を可能な範囲で取り入れ、現在の運行状況も鑑み、これまで以上に利用しやすい公共交通を目指し検討していきます。そのために「公共交通会議」や「生活交通を考える会」を開催しています。会議で策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、オレンジバスの運行ルートや運行方式を決定し、平成26年度10月から新ルートで運行します。						

二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	3	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し	継続	D	C
コメント	町民の移動手段を確保するためには継続していくが、できるかぎり効率よく走らせていく。						

二次評価に対する課の考え方							
---------------	--	--	--	--	--	--	--

参画協働の今後の方針	いつから	平成	年度から	3	実施にあたって、住民(利用者)の意見を聞いて、事業を行っていく		
------------	------	----	------	---	---------------------------------	--	--